

主張

現在、地域金融機関経営におけるキー

ワードの一つに「事業性評価」がある。

事業性評価とは、融資等において決算書の内容や保証・担保に偏ることなく事業内容やその成長可能性等を評価して資金や助言を提供することである。

地域金融機関による事業性評価を通じて、地域企業の事業理解と適切なサポート

を評価するものであり、定性的で不確実性があり、変化が速く、絶対的な正解のない事業経営自体を主な分析対象とする。

そのため事業性評価では、より高い思考力が必要とされ、効率率は重要であるがそれを優先すると「価値ある事業性評価」の実現は難しい。

事業性評価の主な視点は、顧客や商品及び経営機能、組織などから構成される「事業構造」と財務数値から把握される

調査する。しかし、その後全体を再統合しても生き返らない。

事業経営は、経営者の想い、事業、組織、財務など様々な要素が有機的に、複雑に絡み合って存在し価値や命を有している。事業性評価シートで、財務構造と事業構造をそれぞれ分析して無機的に集めても有機体である事業を真に評価することはできない。「有機的な一体的思考」が価値ある事業性評価の勘所である。

そして有機的な一体的思考の主眼点

事業性評価による地域経済活性化を

は地域経済活性化の重要なポイントの一つとして期待されている。

生産性の高い事業性評価は、「価値の高い」分析を「効率的」に実施することで実現される。

これまでの「確定した過去」の財務数値分析を中心としたスコアリングモデルによる信用格付けは、効率化に大きく寄与したが画一的な与信判断となりやすい面がある。事業性評価は、「企業の『将来』

「財務構造」である。また、顕在化した「過去」と事業の成長可能性などの「将来」の視点もある。これまでのスコアリングモデルでは、「過去の財務構造」のウエートが大きかったが、事業性評価においては、「将来」と「事業構造」に、より大きなウエートを置く必要がある。

一般に分析とは複雑な事象を分解して構成要素の詳細を明らかにすることであり、生物の解剖実験でも解体して詳細を

は、「過去の財務構造の変化の要因は何か」「現在の利益の源泉となっている強みは何か」「強みを生かして今後目指す事業構造は何か」「その結果として今後実現したい財務構造は何か」などをストーリーとして論理的に思考することである。

地域経済の活性化に向けて、事業性評価の価値自体を高めることを地域金融機関の戦略の柱の一つとして確立してほしい。